

1. はじめに

「参考資料 5 流域下水道における維持管理負担金の按分方法に関する実態調査」においては、流域下水道並びに流域関連公共下水道が合意形成を図り対策を実施するための取り組みとして、7つの流域下水道の維持管理負担金の徴収方法を紹介している。

本参考資料では、流域下水道を有する都道府県における現状と理想とする維持管理負担金の徴収方法についてアンケート結果をとりまとめるとともに、雨天時浸入水を考慮して徴収方法を変更した事例についてもとりまとめた。

今後、流域下水道における維持管理負担金の徴収方法を検討する上で参照とされたい。

2. 流域下水道における維持管理負担金に関する実態調査

維持管理負担金に関するアンケートは、流域下水道を有する都道府県（42 都道府県、120 流域）を対象とし、119 流域（処理区）から回答を得た。

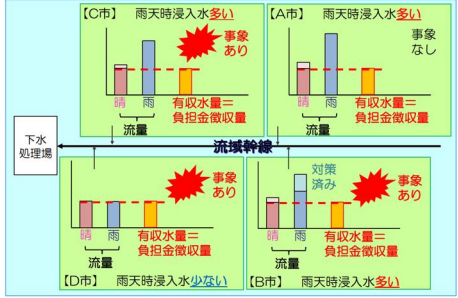
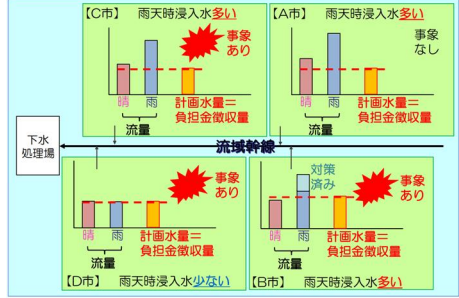
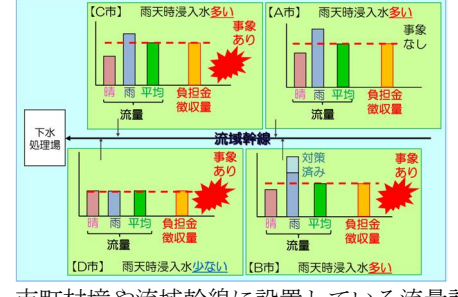
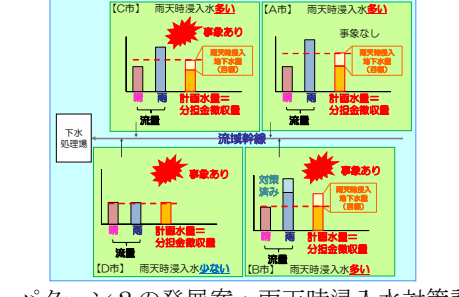
設問と回答については、以下の通りである。

【設問 1】

表 1 の 4 事例のうち理想とする徴収方法を回答してください。

なお、理想とは、雨天時浸入水対策を進めるために有益と思われる方法としてください。
 (現状の徴収方法の該当パターンは令和 2 年度下水道統計情報から自動選択)

表 1 パターン別概略図

項目	パターン 1 有収水量による按分	パターン 2 晴天日汚水の計画水量による按分
概要	 <p>※□: は晴天日の無収水量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近数年の有収水量をもとに維持管理負担金を徴収するパターン。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・晴天日汚水の計画汚水量により維持管理負担金を徴収するパターン。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 雨天時浸入水量が徴収額に反映されないため、特に上流側に位置する流域関連公共下水道における対策を実施するための動機づけになりにくい。 ▶ 対策を実施している流域関連公共下水道の削減量が維持管理負担金の徴収額に反映されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 雨天時浸入水量が徴収額に反映されないため、特に上流側に位置する流域関連公共下水道における対策を実施するための動機づけになりにくい。 ▶ 対策を実施している流域関連公共下水道の削減量が維持管理負担金の徴収額に反映されない。
項目	パターン 3 実水量による按分	パターン 4 計画水量により按分 (雨天時計画汚水量 (目標) を考慮)
概要	 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村境や流域幹線に設置している流量計等から雨天時の流量を把握し、この数値を基に維持管理負担金を徴収するパターン。 ・流量計の測定値、または、流入水量を流量計の測定値で按分した比率とするケースが存在する。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・パターン 2 の発展案：雨天時浸入水対策計画を策定し、各流域関連公共下水道における目標浸入率が設定されていることが前提となるが、実態に近い計画水量による維持管理負担金の按分方法となり得る。
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 雨天時浸入水量が負担金の金額に反映されるため、上流側に位置する流域関連公共下水道における対策の動機づけとなる。 ▶ 対策を実施している流域関連公共下水道の削減量を維持管理負担金の徴収額に反映することができる。 ▶ 流量測定を実施していることが前提となる。 	

【回答結果 1】

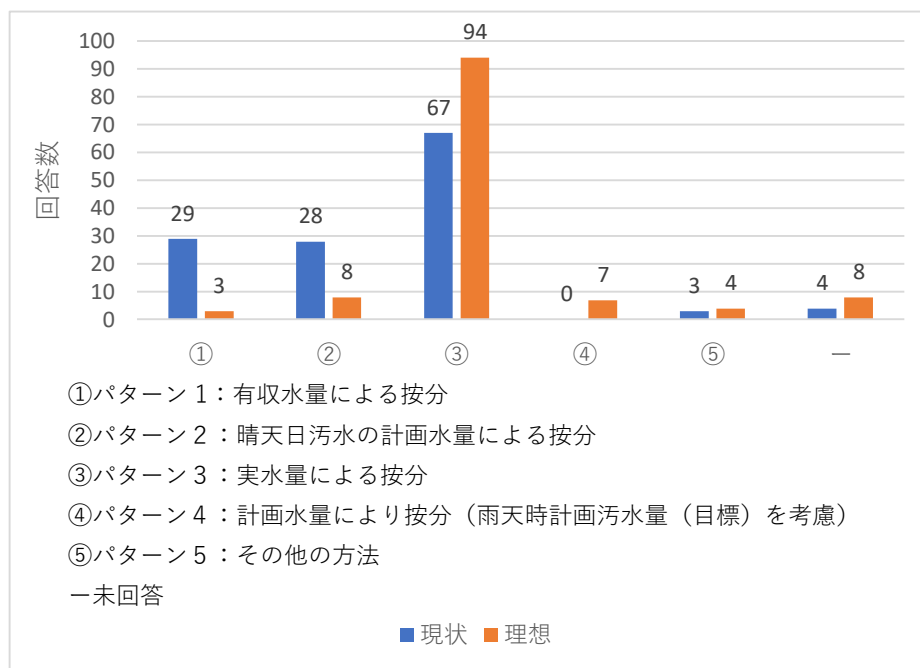
回答結果は、表 2 及び図 1 に示すとおりであった。

- 現状は、③実水量による按分が 67 流域、①有収水量による按分が 29 流域、②晴天日汚水の計画水量による按分が 28 流域であった。
- これに対し理想とする徴収方法は、94 流域が③実水量による按分と回答した。

表 2 維持管理負担金の現状と理想

選択肢	①	②	③	④	⑤	—
	パターン 1：有収水量による按分	パターン 2：晴天日汚水の計画水量による按分	パターン 3：実水量による按分	パターン 4：計画水量により按分（雨天時計画汚水量（目標）を考慮）	パターン 5：その他の方法	未回答
現状	29	28	67	0	3	4
理想	3	8	94	7	4	8

※複数回答を含む。



※複数回答を含む

図 1 維持管理負担金の現状と理想ヒストグラム

【設問 2】

設問 1 で回答した徴収方法が現状と理想で異なる場合、その理由を記載してください。
(異なる要因や、理想にするための障壁等)

【回答結果 2】

回答結果は表 3 のとおりであった。

- 流量計に係わる費用と精度に対する意見が多く回答された。

表 3 維持管理負担金の現状と理想の差違におけるその他意見区分

分類の詳細	件数	備考
流量計の設置及び維持管理に費用がかかる	8	
降雨時の測定流量に精度の問題がある等	8	
合意形成に時間を要する又は困難	2	
計画策定が必要又は、計画策定に費用がかかる	2	
計	20	複数回答あり

※複数回答を含む

【維持管理負担金に係る分析】

表2の結果について、現状パターンごとに理想パターンを把握するため、現状と理想のクロス集計を表4のとおり行った。

また、維持管理負担金の按分方法を変更した事例について追加調査を行った。

- 現状パターンが①有収水量であった29流域は、未回答6流域を除く23流域が実態を反映した③実水量、又は④雨天時計画汚水量考慮を理想パターンと回答した。なお、1流域については、理想パターンでも①有収水量が含まれる複数選択の回答であった。
- 現状パターンが②計画水量であった27流域は、18流域が③実水量を理想パターンと回答した。また、7流域は現状パターンを理想パターンとしており、2流域は未回答であった。
- 現状パターンが③実水量であった67流域は、60流域が③実水量、又は④雨天時計画汚水量考慮を理想パターンと回答した。また、2流域は①有収水量を理想パターンとし、1流域は②計画水量が含まれる複数選択の回答であった。4流域については、⑤その他の方法、又は未回答であった。
- 追加調査により按分方法の変更例として、
 - ・ 流量計の費用や精度の観点より実水量から有収水量に変更した事例（③→①）
 - ・ 流量計の精度の違いを認識した上で有収水量から実水量に変更した事例（①→③）
 の双方があった。

表4 維持管理負担金の現状と理想（組合せとクロス集計）

		理想パターン								計	
		①	①と③	②	②と③	③	③と④	④	⑤		未回答
現 状 パ タ ー ン	①		1			11	2	1		5	20
	①と②					4				1	5
	①と③					4					4
	②			6		13				1	20
	②と③				1	1					2
	③	2				51		4	3	1	61
	⑤					2			1		3
	未回答					4					4
計		2	1	6	1	90	2	5	4	8	119

※：「①と②」等は複数回答の組合せを示す。

①有収水量による按分

②晴天日汚水の計画水量による按分

③実水量による按分

④計画水量により按分（雨天時計画汚水量（目標）を考慮）


⑤その他の方法

参考事例

流域下水道における参考事例として、当該流域における維持管理負担金の徴収方法変更に向けた取組や所要期間等について以下にとりまとめた。

- 下水道施設からの溢水被害が発生したため、雨天時浸入水の原因把握と今後の被害防止を目的として県と関連市町で作業部会を設置。
- 浸入水量の把握や対策を進め、作業部会設置から7年を経て独自の対策計画を策定。
- 当初、流域下水道の維持管理負担金は、有収水量割合で徴収していたが、雨天時浸入水を考慮して作業部会設置から9年後に流域下水道への接続点の実績流入水量割合での徴収に変更。

表5 対策の経緯

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目～
主な 内容	▼作業部会設置 ▼市町村ヒアリング						▼作業部会 ⇒専門分科会へ			▼維持管理負担金の徴収方法変更
										
	雨天時浸入水の流入実態の把握、流入原因の調査、参考取組事例の収集、効果的な処理場運転方法の検討、対策検討（オリフィスによる緊急的（短期）対策、対策計画に基づく中長期対策）、計画策定スケジュール、等									